

分野別講座「Oから教えます、先生の仕事」 参加者 十二名

まとめ 阿久澤恵子

●提案 深澤英雄

参加者はまず「教師にとって大事な力」を五つ考えました。自分の描く教師像や現在自分が置かれている状況によって、「必要」な力を考えたようでした。

講師は「教師には多種多様な力が必要である」と話された上で、

「コミュニケーション力」

「疑問をもつ力」

「相談力」

「準備力」

「心の体力（我慢力）」

の五つの力を上げました。

中でも「コミュニケーション力」

は多くの参加者も大事だと考えており、学校での子どもや同僚との関係、保護者との関係など、日々の取り組みや学校の置かれている社会的状況から、必要不可欠であると感じている実態が分かりました。ただ、教師も人間であることから、「苦手な子どもがいること

分野別講座「小中高をつなぐ学力づくり」 参加人数 二十名

まとめ 深沢 英雄

子どもたちの実態から

わかったこと

阿久澤恵子

情熱あふれる阿久澤先生の話ぶりに参加者が引き込まれる講座でした。

学んだポイント

一、中学校での学力づくりで大事にしていること。

①生活の基盤づくり

○挨拶・返事・提出物○当たり前のことを当たり前にやる○社会性を身につける○労働が人を作る

「掃除の仕方は勉強の仕方」

②学習の基盤づくり○「鉛筆・下敷き・丁寧な字」の徹底指導

○鉛筆の持ち方指導○ユビックスの活用○ひらがな練習帳○カタカナ練習帳○名文視写○ノート指導

③自主学習を通して勉強の方法を身につける。

ノートは「罫・縦に4分割して使う・答えだけを書く・すぐに丸つけ、間違いをなおす。鉛筆はB（正しく持つ、そのためにユビックス）・毎日自分でできる量をぼちぼちやる。

二、学校が子どもたちに身に付けさせるべきこと

○徹底した「基礎基本」の習得（身に付くまで何度でも学び直す）

※身に付くとは習慣・感覚まで高めること

○人として「当たり前にする」

生徒の実物のノートなどを回覧してもらおう。びっしりと書いているノートを見て、参加者は驚いていた。講座の中で阿久澤先生の言う、感覚とは、「かけ算九九」でいうと、考えるのではなく、瞬時に答えができることを指している。基礎基本の自動化・体化しているということを感じと位置づけている。

三、大事にしている言葉

「論語」「之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむに如かず。」

「小さな習慣」

「小さな目標は大きな目標よりすぐれている」「モチベーションに頼っても習慣は身に付かない」